

公務災害防止事業の推進

女性消防団員活性化大会において 安全管理セミナーを実施

(公財) 佐賀県消防協会
常務理事 古賀 大喜

1 はじめに

佐賀県消防協会では平成14年2月17日(日)に第1回佐賀県女性消防団員活性化セミナーを開催し、今回で13回目を迎えることとなりました。

第1回目を開催した当時、佐賀県49市町村の内、21の市町村消防団に女性部があり、329名の女性団員が活動しておりました。

この第1回目の活性化大会では97名の女性消防団員等が参加し、いまだはっきりしていなかった女性消防団員の活動内容について、各分科会に分かれて、真剣に今後の方向性等について参加者全員で討議しました。

そのときの分科会のテーマは「災害現場への出動の是非について」「予防活動(家庭訪問)での問題点について」「地域ボランティア活動について」「地域住民と女性消防団員とのコミュニケーションの在り方について」「女性消防団員の確保対策について」でした。これらのテーマについては、14年たった今日でもなかなか明快な解決策を見出しきれない内容も含まれています。

2 女性消防団員活性化セミナーの概要

今回、消防基金の公務災害防止研修事業を利用させていただき、「安全管理セミナー」を平成26年2月2日(日)佐賀県三養基郡基山町の基山町民会館で開催しました。第13回佐賀県女性消防団員活性化セミナーの中で消防基金と共催で実施させていただきました。

参加人員380名(内、消防団員360名)で県内各消防団から女性消防団員の皆さんが参加しま

した。

開会式では、佐賀県消防協会原田会長が主催者挨拶、続いて来賓を代表して、佐賀県危機管理・報道監(代理佐賀県消防防災課長)、基山町長、基山町議会議長の3名のかたが御挨拶をされ、開会式を終了しました。

続いて、第1部「消防団員安全管理セミナー」が開催され、講師は消防基金から派遣していただいた藤津誠氏に務めていただきました。

講話内容は、テキストを使って「消防の任務」「消防団の業務」「災害現場における安全管理の基本」「指揮者としての安全管理等」などについて、映像を交えながら熱心に講話を実施していただきました。

第2部「活動報告」では5消防団から下記の活動報告がありました。

- 1 「私たちの15年とこれから! 神崎市消防団女性隊」・神崎市消防団
- 2 「第21回全国女性消防操法大会に出場して」・基山町消防団
- 3 「消防ゴレンジャー(女性消防団員)と一緒に学ぶ防火教室」・伊万里市消防団
- 4 「消防団活動に感謝(仲間と共に歩んだ10年)」・佐賀市消防団
- 5 防災シミュレーション「あなたは72時間生き残れますか」・佐賀市消防団

3 安全管理セミナーを実施して

今回は、400名近くの団員が一堂に会して受講する研修会でしたので、消防基金の公務災害防止

研修事業のうち、「安全管理セミナー」を選択しました。

佐賀県の女性消防団員は、火災現場に出動し筒先を握る女性消防団員はごく少数で、離島の女性団員に限られます。また、火災現場に出動しても、放水等を行わず、罹災者のケアのみに従事する女性団員もおりますが、大部分の女性団員は広報活動（広報車による街宣活動）、火災予防運動（独居老人宅での火災予防診断・幼稚園等での紙芝居、寸劇による火災予防広報）、地域内各団体に対して消防署員と一緒に心肺蘇生法の普及啓発に従事する人たちです。



第1部 安全管理セミナーでの講演の様子

女性消防団員の活動では消防自動車や広報車を使用しますので、幼稚園等に到着し、車からの乗り降り、機材の搬送等においても災害現場と同じような危険が至るところにあります。ただ、災害現場のような緊急性、混雑、緊張感が若干少ないだけです。

受講を経て、女性団員にも「消防団危険予知訓練（S-KYT）」の必要性を痛感しました。女性消防団員の活動内容に特化した研修内容で実施できれば、開催方法、特に参加人員を考慮して県内各地域に分散して、年次計画で女性消防団員のS-KYTを実現したいと考えています。特に指先呼称は女性団員の日常活動の中で、ぜひ取り入れていただきたい習慣の一つです。

4 おわりに

反省点として、参加者の皆さんに事前に女性消防団員の日常活動の中に潜在する危険性の具体的事例、経験、予知等について把握してもらえば講師が話された「災害現場における安全管理の基本」もより身近で有意義な講習会になっていたと反省しています。



第2部 活動事例報告の様子